

## 平成29年 第1回定例会 産業建設委員長報告

平成29年3月14日（火）

産業建設委員会に審査付託された議案について、去る3月6日、7日の2日間にわたり委員会を開催し、それぞれ慎重に審査を行いましたので、その経過及び結果についてご報告いたします。

議案第18号「平成29年度 岡谷市一般会計予算」中 産業建設委員会に審査付託された部分について、審査の主な点をご報告いたします。

はじめに、所管する各部の執行体制の主な点についてご報告いたします。

まず、産業振興部は、農業委員会を農林水産課に含め、3課1室で組織し、正規職員42名、嘱託職員6名の合計48名であり、前年度当初に比べ、昨年10月の工業政策部長就任による増、嘱託職員で産業振興課のUIJターンコーディネーターが1名減である。

次に、建設水道部では、3課体制で組織し、正規職員63名、嘱託職員12名の合計75名であり、前年度当初に比べ、都市計画課のまちづくり専門員が1名減、水道課の正規職員1名の減、料金徴収に係る嘱託職員2名の増とのことであります。

次に、款ごとに審査の内容についてご報告いたします。

まず、歳出について、5款 労働費では、障がい者等雇用促進事業について、委員より、障がい者等雇用促進事業費54万円の内容について質疑があり、事業費54万円の内訳は、1年間障がい者を雇用した場合の雇用奨励金、1人当たり12万円の3件分を見込んでいる。また、障がい者就労体験補助金として、障がい者が企業で就労体験した場合及び、インターンシップ促進補助金の内、障がい者がインターンシップを行った場合は、それぞれ1日6千円、最大5日分の3万円を上限として3件分の9万円を計上しているとのことである。

また、雇用奨励金は、法定雇用率を超えて障がい者を雇用した場合に対象としているとのことでありました。

次に、鳥獣被害軽減対策事業について、

委員より、ニホンザルの捕獲頭数、また、くくりわな、箱わなの対象鳥獣について質疑があり、捕獲頭数は30頭であり、ニホンザル防除対策委託52万2千円については、箱わな等で捕獲したニホンザルにGPSを付け、活動範囲を調査する事業である。

また、くくりわな、箱わなの対象鳥獣はニホンジカとイノシシであるが、新倉地区のくくりわなについては、ニホンザルも想定しているとのことでありました。

次に、7款 商工費では、

まず、商業振興事業費について、委員より、商業環境調査負担金について質疑があり、レイクウォーク岡谷が開店して1年が経過するため小売店舗へのアンケートや、消費者へのアンケートを実施する。

また、平成29年秋に大型店が松本市に開店することから、再度、秋に消費者へのアンケートが実施できればと考えており、平成30年1月頃に提言をいただくように進めていきたいとのことでありました。

次に、シルキーバス運行事業について

委員より、予算額増の理由について質疑があり、シルキーバス運行事業費については、前年度と比べ、523万8千円の増である。理由はバス車両1台の購入費用600万円を見込んでおり、バスは中古車両を予定しているとのことでありました。

委員より、地域の公共交通を守る上で、バスに対する補助金等の状況について質疑があり、国の補助金については、以前低床バスが対象であったが、岡谷市の山間地域では運行ができなかった経過がある。現在は各市町村でもコミュニティバスを運行しているため、該当する補助金はないとのことでありました。

委員より、バス停の設備、ベンチの設置について、できるところがあれば検討いただきたいとの要望がありました。

次に、産業振興対策事業費では、SUWAブランド創造事業委託料について、

委員より、事業の費用対効果について質疑があり、信州大学の学生が、小型ロケットプロジェクト事業を補佐しており、一緒に一年間活動した県外出身の学生の諏訪圏企業への就職や、エンジン開発の指導を受けているJAXAの技術者からも諏訪圏の精密加工技術を評価され、JAXAから部品の受注を受け

るなど、地方創生の東京一極集中の是正、仕事が人を呼び、人が仕事を呼び込むという事例をつくれればと考えているとのことでありました。

次に、岡谷市商工業振興補助金について、

委員より、公平性という点での課題についてどのように考えているか質疑があり、従業員数、売り上げ等の規模で制限は無く、以前にも従業員4人の小規模な企業が工場を新設する場合に活用いただいた例もあり、岡谷市商工業振興補助金の成果は高いと考えているとのことでありました。

委員より、多くの企業が活用できるように工夫いただきたいとの要望がありました。

次に、蚕糸業対策事業費について

委員より、日本絹文化フォーラム負担金の事業内容について質疑があり、全国規模の着物愛好者、服飾関係の企業、高校・大学関係者など、市民も含め幅広く募集して開催するシンポジウムで、大日本蚕糸会会頭の基調講演、事例発表などを予定しているとのことでありました。

次に、商業観光施設費について、

委員より、イルフプラザ管理事業費について、共益費負担金の減額理由について質疑があり、平成28年度と比べ、1325万1千円の減であり、これは、電気料が、平成27年度と平成28年度を比較すると、kw/hあたり2円程度安くなり、イルフプラザでは一年中店舗が営業し電気を使用しているため単価の影響が大きく、共益費負担金が減額しているとのことでありました。

次に、8款 土木費について、はじめに、本会議において出されました付託事項についての審査内容を申し上げます。

まず、立地適正化計画策定事業について、「立地適正化計画策定の必要性について、委員会で審査を深めてほしい」との付託事項について、市側より、立地適正化計画は、現在のまちの課題を整理し、その上で地域の将来像を都市計画的な視点から描くものであり、「持続可能なまちづくり」のために策定する計画で、「コンパクトシティとネットワーク」をキーワードとしているものである。

計画では、一定区域を「居住誘導区域」に設定し、時間をかけゆっくりと誘導するものであるが、この手法には様々な見方や意見がある。

しかし、今後のまちのあり方や政策において、「これまでと同じ取り組みで良

いはずがない」という、明確な事実があるものである。

この計画が目指すものは「暮らしやすいまち」「幸せな暮らし」を実現することであり、先人たちが築いた「まちを使い」「まちを育てる」「まちの価値を高める」将来に備えるための計画であり、岡谷市の成り立ちや地域の特性を尊重した「次世代につなぐまちづくりの計画」として、策定が必要であると考えており、策定に当たっては、岡谷市の総合計画、人口ビジョン、創生総合戦略、各部署が作成する事業ごとの個別計画との整合を図るものであるとの答弁がありました。

関連して委員より、現時点でのまちの課題、今後のスケジュールについて質疑があり、まちの課題については、まちの人口の減り方は局所的に減少するのではなく、全体的にスポンジ化していくことが大きな課題として取り上げられている。立地適正化計画の居住誘導区域は、誘導区域に人を集めることによりインフラ整備などを効率的に行なう「コンパクトシティ化」を目指すものであるが、国土交通省も2月に小委員会を設置し、スポンジ化にどう対応するか検討を始めているものである。

スケジュールについては、平成29年度で素案をまとめ、平成30年度に素案をベースに市民と意見交換等を実施し案を固めたいとのことでありました。

委員より、居住誘導区域の設定について質疑があり、居住誘導区域外に住んではいけないということはないが、3戸以上の開発については、できるだけまち中の住みやすいところに移るよう誘導していくものである。

さらに、居住誘導区域外は将来サービスが受けられないのではという心配がされているが、特別措置法による立地適正化計画の考え方を受け止めながら、まちを作れないかという議論もでてきている。今後、国の動向も見定めながら、地域のまちのあり方を議論することが大事だと考えているとのことでありました。

委員より、素案には居住誘導区域が設定されるのか質疑があり、居住誘導区域、都市機能誘導区域、誘導施設の設定を行なうとのことである。

さらに委員より、中間報告の資料では、湊、川岸地域は災害の視点から居住にふさわしくない位置づけになっているが、湊、川岸地域は居住誘導区域から外れるのか質疑があり、現在、居住がある地域を基本に、居住誘導区域を検討し、今後分析を進めた上で最終的に素案としてまとめていくものである。

さらに、中間報告の資料では、土石流や急傾斜地など、土砂災害防止法で指定した区域について、住んではいけないということはなく、砂防事業などを実施し、住民の生活を守るということを一方では実施しており、現状を守ってい

くことも併せて考えていかないといけないとのことでありました。

委員より、都市機能誘導区域において、公共施設の位置の変更について質疑があり、現段階では、公共施設の場所を移すというところまでは考えていない。現状ある範囲でエリアをカバーできているかというところを検証しているところであるとのことでありました。

委員より、住民が望む計画と、市が考える計画の差がないように、お互いの思いが一緒になったような計画になるように検討いただきたいとの要望がありました。

次に、同じく、本会議において出されました付託事項についての審査内容を申し上げます。

スマートインターチェンジ整備調査事業について、「スマートインターチェンジ整備調査事業10万円だけでなく、スマートインターチェンジ整備の必要性についても、委員会で審査を深めてほしい」との付託事項について、

市側より、地域の生活利便や将来のまちの発展の可能性は、その地域の交通網と密接に関係している。

高速道路網の果たす社会的な役割は、「国内外を結ぶネットワークの形成」、「暮らしや企業活動の「人」「モノ」を支える、都市基盤のインフラであること」、「輸送時間の短縮や貨物取扱量の増加により、産業の生産性の向上に寄与すること」、「災害時には緊急物資や復旧資器材の輸送のための代替路としての役割を担っていること」であり、生活を送るうえでの基礎となる重要な役割を持っている。

また、長野県は、リニア新幹線の山梨県駅を活用できるよう、周辺道路の整備とともに重要な位置づけとしているものである。

スマートインターチェンジ計画は、諏訪地域の自動車交通の動脈であり、中央自動車道の諏訪湖サービスエリアに高速道路への新たな出入り口を整備するものであり、生活の利便性の向上のみならず、諏訪湖周地域の利便性、優位性や価値の向上、さらには将来交通網の発展にとって極めて重要な事業であるとの答弁がありました。

関連して委員より、リニア新幹線が利用しやすくなるというのは、必要性のところでは理屈に無理があるのではないかと質疑があり、リニア新幹線との接続では、広範囲な多岐にわたる整備効果や使われ方を想定しないと、地域の将来にとってマイナスになるため、リニア新幹線も位置付けている。

さらに、現在山梨県では、山梨県駅を山梨県の可住地から30分で行けるよ

うに、約400億円の道路整備を計画しており、それを考慮すれば、高速道路の利用により、諏訪地域においても山梨県駅の利用価値が見込め、是非必要であるという判断をしているとのことであります。

委員より、現時点で一般道と高速道路は繋がっているのか質疑があり、高速道路の緊急車両の出入り口が湊地区に設定されているが、高速道路の出入り口から県道岡谷茅野線に降りるには、一般の生活道路、特に有賀地区の狭い道路を通ることになる。諏訪湖サービスエリアスマートインターチェンジができることにより、広い道を通行でき、直接、県道岡谷茅野線に降りて、岡谷市民病院などに移動でき、今よりも緊急車両にとって利便性が向上されることが想定されるとのことである。

さらに、委員より、スマートインターチェンジ設置によりどのくらいの交通量を見込んでいるか質疑があり、アクセス道路を通過する交通量は大型車も含め1日3000台を見込んでおり、平成42年の将来交通量では県道岡谷茅野線は1日1万6500台であるが、スマートインターチェンジができることにより増える台数については算定できていないとのことであります。

委員より、スマートインターチェンジができ、車が増えることへの心配もあるため、分析や調査を住民に公表するなど、意見交換をしていただきたいとの要望がありました。

また、委員より、スマートインターチェンジができると、経済効果も含め、様々な効果があると思うが、地域住民の理解と協力がないとできないものであり、丁寧な説明をし、後戻りすることの無いよう進めていただきたい、また、今後住民の声をしっかり聴くような活動の実施と丁寧な対応をお願いしたいとの要望がありました。

次に、本会議付託以外の部分について、委員より、道水路等維持補修事業について、対症的に道路に穴が開いたら治すのではなく、そうなる前に修繕ができないか質疑があり、主要幹線は長寿命化の中で計画的に修繕しているが、細い生活道路は計画的に修繕していくことは難しいと考えており、状況を見ながら必要なところを対症的に実施している。また、住民からの通報やパトロールで発見した穴等については、直営の作業員4名などにより速やかに対処し、その後、自前での舗装等を実施するなど、延命をしながら、必要なときに改修していくとのことであります。

次に、老朽団地住替事業について、

委員より、木造及び簡易耐火構造平屋建て市営住宅の住替えの対象について質疑があり、出の洞の市営住宅が3件、橋詰の市営住宅で6件、高尾の市営住宅で25件、中村の市営住宅で5件の合計39件が対象になるとのことであり  
ました。

次に、歳入について、第1表歳入歳出予算中担当部分、第2表債務負担行為  
中及び、第3表地方債中については、特段質疑等はありませんでした。

次に討論について報告いたします。

SUWAブランド創造事業は、関係者には期待されている事業で、市民にも  
関心の高い事業である。さらに、この事業が大きくなり、継続されることを要  
望する。

しかし、地域公共交通活性化協議会委員報酬の企画事業費から商工業振興費  
への移動は、地域公共交通は、市全体を俯瞰しながら考えるべき点で疑問であ  
ること、また、立地適正化計画策定委託料は、「課題の洗い出し」であるが、居  
住誘導区域と線引きされた地域の住民サービスの低下などの疑問が払拭できな  
いこと、岡谷市商工業振興補助金では、この制度そのものを否定するものでは  
ないが、補助を受けていない企業との公平性に欠け疑問が残るものである。

さらに、スマートインターチェンジ調査事業では、住民生活を犠牲にして、「経  
済性」や「地域振興」を優先する建設計画には疑問を持つものであり、2月2  
0日に公表された スマートインターチェンジのアクセスルート案とともに、  
スマートインターチェンジそのものの必要性がないと判断し、現計画案に反対  
を表明し、白紙撤回を求め反対する。

一方、平成29年度は、諏訪湖周サイクリングロードの整備、スマートイン  
ターチェンジの検討、商業環境調査など、将来に向けた大きな取り組みに期待  
をしている。立地適正化計画の策定については、市民の暮らしを守り、暮らし  
やすいまちになるよう取り組みをお願いしたい。

また、岡谷市の重要施策である、産業の振興、幹線道路、生活道路の整備、  
狹隘道路の拡幅、通学路の安全対策、そして市民の誰もが安全に安心して暮ら  
せるユニバーサルデザイン、バリアフリーの一層の積極的な推進を要望する。

岡谷市がもつ特色ある地域資源を最大限活用し、効果的、効率的な予算執行、  
市民の誰もが将来に希望が持てるまちづくりをお願いし賛成する。

また、第4次岡谷市総合計画実現のため、必要な施策事業に財源を集中し、

重点的かつ効率的に配分された予算である。「市民みんなが元気に輝く、たくましいまち岡谷」の実現のため、なお一層の配慮をお願いし賛成するとの討論がありました。

以上、審査の結果、議案第18号中産業建設委員会に審査付託された部分については、賛成多数により、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第20号「平成29年度 岡谷市地域開発事業特別会計予算」、議案第21号「平成29年度 岡谷市分収造林事業特別会計予算」及び、議案第23号「平成29年度 岡谷市温泉事業特別会計予算」については、審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第26号「平成29年度 岡谷市水道事業会計予算」について、委員より、水道施設の再構築事業の内容について質疑があり、平成29年度からの再構築事業として、新小井川配水池を建設するための、用地買収、それに伴う事務処理等であり、平成29年度に設計を行なうものである。

また、間下減圧槽については、一旦水を集め圧力を無くし配水する施設を建設するが、用地買収、設計、工事まで行なうもので、規模は12立米である。

その他、東堀水源、河原口水源、片間町水源の3つの水源の水を一箇所を集めて新小井川配水池に送るための送水ポンプ場の用地処理を行ない、工事関係では、各施設に関わる配水管の設計を行なうとのことであります。

委員より、水道料金収入の見込みについて質疑があり、引き上げ分については、前年度比較で営業収益では2336万4千円の増を見込んでいるとのことである。

さらに、委員より、収納率の維持向上で嘱託職員を1名増員し、予算計上しているが、目的について質疑があり、現在、収納率は約99.3%で推移しており、少しでも収納率を上げるために、支払いが滞る方については、戸別に訪問する機会を多くして、実情に合わせた収納方法にするため対応したとのことでありました。

次に、討論について報告いたします。

水は市民生活には無くてはならないもので、健康で文化的な生活を営む土台と言える。

その一方で、水道料金の引き上げにより、経費を賄うことには賛成できない



ものである。国に対し、必要な財源措置を求めなければ、社会経済情勢に関係なく、料金を引き上げ続けなければならない事態が懸念され、料金値上げを前提とした新年度予算は認められないことから反対する。

一方、老朽化した施設整備や安定経営を維持していくためには、料金改定はやむを得ないとし賛成する。

また、水道事業基本計画等により、健全経営を維持しながら、効率的で適切な施設の維持管理、耐震対策、安全で安定的な水の提供、人材の確保・育成に引き続きご努力を要望し賛成するとの討論がありました。

以上、審査の結果、賛成多数により、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第27号「平成29年度 岡谷市下水道事業会計予算」について、委員より、平成28年度予算と比べ、減となっている理由について質疑があり、資本的収入及び支出の部分で、工事件数の若干の減少、ストックマネジメント事業において、平成29年度は計画を策定する予定であるが、直ぐに工事の実施とならない部分があるため、事業費が減少しているとのことであります。

以上、審査の結果、原案のとおり可決することに決定いたしましたので、報告いたします。

報告は以上であります。